

偶然仕掛け人

ヨアブ・ブルーム著／高里ひろ訳 集英社 2,100円＋税
私たちの人生を左右する「偶然」はすべて秘密工作員によって綿密に計画されている——こんな奇想天外な物語を読まずにいられますか？「想像の友だち」「幸運配達人」なんて仕事も出てきます。物語は少し複雑ですけど、登場人物はガイ、エミリー、エリックの3人を押さえておけば大丈夫。深くて優しいイマジネーションの世界へぜひ。

ファンタジー／恋愛／ハムスター 島村浩子 翻訳者

原州通信

イ・ギホ著／清水知佐子訳 クオン 1,200円＋税
国民的作家と国民的小説をパロディー化した、愛と笑いと悲哀に満ちた短編。子どもの頃、ぼくの家の近くに引っ越してきた「先生」とは顔を合わせたこともなかったけれど、その「先生」のことで、とんでもない“事件”に巻き込まれます。実話を散りばめたオートフィクションですが、一体どこまでが本当なのか！リアルな語り思わずはまってしまいます。

清水知佐子 翻訳家

ハリー・クバート事件（上・下）

ジョエル・ディケール著／橋明美訳 創元推理文庫 各980円＋税
殺されたノラとはいったいどんな少女だったのか。強烈な謎に引っぱられて、読みはじめてら徹夜は必至。とにかく面白い本を読みたいなら、本書をどうぞ。

ミステリー／徹夜本 鈴木恵 働き者の出版翻訳者

海にはワニがいる

ファビオ・ジューダ作／飯田亮介訳 早川書房 1,400円＋税
10歳の少年が、見知らぬ土地で一人生きのびることを強いられる。大切な人が寝ているあいだに消えてしまうから、眠るのさえ怖い。それでも、道は「今とは違う未来」に続くと思じて、過酷な旅を続ける。願いはただ、安心して住める場所を見つけること。彼らの「ストーリー」を知ることではしか見えてこない現実が、この小さな本の中にぎゅっと詰まっている。

ノンフィクションノベル／難民／旅／成長物語 関口英子 イタリア語翻訳家

iレイチエル

キャス・ハンター著／芹澤恵訳 小学館文庫 1,100円＋税
愛する人が亡くなったあと、遺された家族のもとに亡き人そっくりのアンドロイドがやって来たら……？という設定で描かれる、喪失と再生と成長の物語。慌ただしさやストレスで蹴くちやになった心に、さっとアイロンを当ててくれるような作品です。

AI（アンドロイド）／ごくごく柔らかないSF？／家族 芹澤恵 文芸翻訳者



失われた時を求めて④

ブルースト著／高遠弘美訳 光文社古典新訳文庫 1,500円＋税
語り手は架空のリゾート地バルベックへ祖母と赴きます。そこで知り合った海辺の少女たち、とりわけ、この先重要な役割を果たすアルベルチーナへの恋の発端が見事に描かれます。と同時に、架空の画家エルスチールとの交流を通じて、絵画藝術の神秘をも感得します。どの巻もそうなのですが、この巻も決して見逃せません。

高遠弘美 明治大学商学部・大学院教養デザイン研究科教授

アラバマ物語

ハーバー・リー作／菊池重三郎訳 暮しの手帖社 1,300円＋税
幼い少女の目を通して見た世界のなんというまぶしさ。しかし、ここにもやはり差別や偏見などの社会の闇が影を落とすこともあり……。古き良きアメリカ南部の生活を描きながら、普遍的な人間物語にもなっているアメリカ文学の古典的作品。今、つぶやきの多い誰かのせいでアメリカ嫌いになっている人にもぜひ読んでほしい。

ドラマ／家族 高橋佳奈子 英米文学翻訳者

13・67

陳浩基著／天野健太郎訳 文藝春秋 1,850円＋税
香港の警察よ、おまえはどうなる？ その香港警察の歴史をひととく極上ミステリー。収録された六つの物語それぞれがミステリーとして秀逸なのはもちろんのこと、主人公天眼のクワン教官とロー警部の人生を遡りつつ、なおかつ六つの物語の因果応報をつないでいく手腕に脱帽。あなたも最後の最後でグッとくること間違いなし！

ミステリー／歴史／警察／香港 谷川毅 名古屋経済大学教授

極大射程（上・下）

スティーヴン・ハンター著／染田屋茂訳 扶桑社 各762円＋税
人里離れた山のなかで隠遁生活を送る名スナイパー、ボブ・リー・スワガーのもとに、新たに開発された弾丸を試してもらいたいという依頼が舞い込む。ボブはその依頼に応じるが、そこには彼を陥れる策略がめぐるされていた。かくして彼は多勢を敵に死闘を繰り広げることになる。ひたすらカッコいいボブの姿を、あなたもぜひお楽しみください。

アクション／冒険／陰謀 高橋知子 英米文学翻訳者

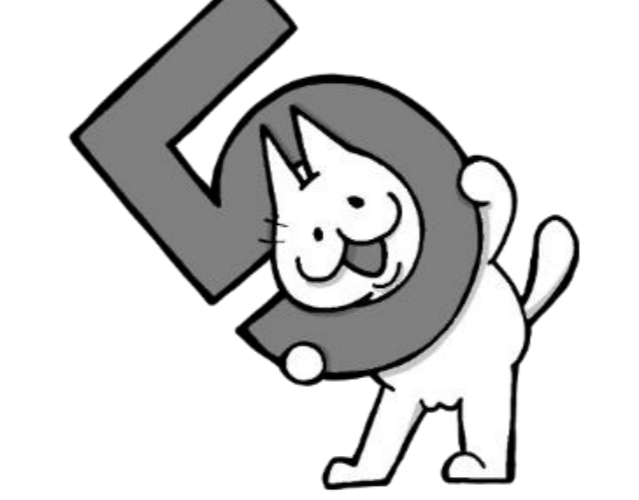
僕には世界がふたつある

ニール・シャスタマン著／金原瑞人、西田佳子訳 集英社 2,200円＋税
奇妙な話でよくわからないままぐんぐん引き込まれる。主人公は友だちとゲーム作りに熱中する普通の少年。だが同時に海賊船で世界一の深淵を目指す冒険家でもある。船が深淵に近づくとつれ、現実と幻想の境界が曖昧になっていく。「あっちとこっちに同時に存在する感覚」に翻弄されつつ、見えてくる希望の光に安堵する。

ミステリー／ファンタジー／冒険 遠山明子 ドイツ文学翻訳家

はじめての海外文学

Vol.5



大人向け①

「はじめての海外文学」フェアは、日本じゅうの書店店舗が協力し、

お薦めの海外作品をいっせいに売っていく壮大な試みです。2019年も11月から第5回フェアが

各書店で展開されます。今回も大人向け、

子供向けの両部門で開催され、

選書メンバーの翻訳者は、合わせて86名。

どうぞ素敵な本との出会いがありますように。

＊

＊

＊

＊

＊

＊

＊

キャリアー

スティーヴン・キング著／永井淳訳 新潮文庫 710円＋税
このデビュー作をもって、作者は小説の世界に“スティーヴン・キング”という新たにして広大なジャンルを切りひらいた。ホラーの枠にとどまることなく、人間の精神を深く探究し、しかも極上のエンターテイナーでありつづけるキング。彼のすべてがここにあり、すべてはここから始まった。

ホラー／サスペンス 青木悦子 英米文学翻訳家

チェコSF短編小説集

ヤロスラフ・オルシャ・Jr.編／平野清美編訳 平凡社ライブラリー 1,500円＋税
現実をねじって、ひねって、引っ掻き回す。これこそ、「小説」の醍醐味というもの。しかも、中欧の小国チェコの歴史を背景にしたユーモアと皮肉がたっぷり。くすりと笑うか、にやりとするかはあなた次第！「もうひとつのSF」の姿がここにある。

SF／ファンタジー／チェコ 阿部賢一 チェコ語翻訳者、東京大学准教授

フィフティ・ピープル

ジョン・セラン著／斎藤真理子訳 垂紀書房 2,200円＋税
韓国のとある病院を中心に医療関係者、詩人、小学生、刺青師、主婦にミュージシャンと職業も境遇も様々な50人が主役を張り、あるいは別の誰かの生活にカメオ出演しながら人間模様を織りなす。終盤ある災難が彼らの身に降りかかる頃には全員の存在が愛おしく、どうかご無事でと祈りながらページをめくることになる。装丁も含め宝物のような連作短編集。

雨海弘美 翻訳者

牧神の影

ヘレン・マクロイ作／淵上瘦平訳 ちくま文庫 900円＋税
江戸川乱歩や横溝正史は好き……新本格にハマった……でも「次に進むべき翻訳書」がわからない?! そんな君には、ケルト幻想と本格ミステリーを正面から融合させた本作を薦めたい。濃厚な死の臭いを混ぜ、にもかかわらず理知的な雰囲気最高だ。何より、本書を読み終えたら、君はいっぱしの暗号解読者になっていること間違いなし！

ミステリー／幻想／暗号／スパイ 岡和田晃 文芸評論家・ゲームデザイナー、「ナイトランド・クォーターリー」誌編集長、東海大学・法政大学講師

少年が来る

ハン・ガン作／井手俊作訳 クオン 2,500円＋税
最近話題の韓国文学のなかでも、ずば抜けた作品、作家です。1980年、光州市で民主化デモと戒厳軍が衝突して多数の死傷者が出た「光州事件」。その蜂起に加わった若者や家族の体験、思いを迫力の筆致で描き出します。少年の運命、女性たちの心の傷、母親の慟哭——他国の話でありながら、眼のまえに彼らがいるような臨場感。まさに海外文学の醍醐味。読む者をねじ伏せる物語の力を感じてください。

政治／ファンタジー／歴史 加賀山卓朗 翻訳者

戦場のアリス

ケイト・クイン著／加藤洋子訳

ハーパーBOOKS　1,204 円+税

第一次大戦中に実在した女スパイたちの活躍を描く歴史スパイ小説。行方不明者を探して風光明媚なフランスを旅するロードノベルでもあり、女の友情と報われぬ愛が彩を添えています。本書の肝は、復讐を果たせば魂は救われるのか、という永遠のテーマです。秋の夜長、一気読み必至の一冊。

歴史／スパイ／女の友情

加藤洋子　文芸翻訳者

わたしの本当の子どもたち

ジョー・ウォルトン著/ 茂木健訳

創元 SF 文庫　1,300 円+税

1926 年、イギリス生まれのパトリシアがたどるふたつの人生を描いたパラレルワールド物。みじめな生活を余儀なくされる彼女の住む世界が平和なのに対し、幸せな選択をした彼女の住む世界は何度もテロや小規模な核戦争が起こっている。この皮肉な設定で展開するストーリーが文句なく面白いうえに、エンディングが素晴らしい！

SF／LGBT／恋愛

金原瑞人　法政大学教授、翻訳家

ディオゲネス変奏曲

陳浩基著／稲村文吾訳

ハヤカワ・ポケット・ミステリ　1,700 円+税

欧米ばかりが外文じゃない！　日本大好きな香港出身の作家が送る組曲は、サスペンス、密室、SF、ホラー、ギャグと、主題が変奏していくミステリーの宝箱。飽きずに読めて、読後は思わずニヤリとしてしまう、ポップでキッチュな華文ミステリーの世界をお楽しみください。きっとお気に入りの作品が見つかるはず！

SF／コメディ／ミステリー／ファンタジー／ホラー

上條ひろみ　英米文学翻訳者

すべての、白いものたちの

ハン・ガン著／斎藤真理子訳　河出書房新社　2,000 円+税

生まれてすぐに死んだという、会ったことのない姉。作者は異国の地を歩きながら、世界を見ずに世を去った姉に自分の肉体を明け渡し、姉の目で世界を体験しなおそうとする。重なり合ういくつものイメージに、生と死が交差する。どの一文も呻くほど美しく、全ての文章に狂ったように線を引きたくなった。

韓国文学

岸本佐知子　翻訳家

荒野にて

ウィリー・ヴローティン著／北田絵里子訳

早川書房　2,000 円+税

老いた馬を連れ、無謀な旅に出た 15 歳の少年。やむにやまれぬ衝動、決意がぐらついた瞬間、手を差しのべてくれた人々、心に負った深い傷——その旅にまつわるすべてを苦く温かく、痛みとともに思い返しながら、彼は生きていくのでしょうか。青春物語の余韻のほかで、その先に続く人生の滋味をも感じさせる、稀有な小説です。青春／ロードノベル／馬

北田絵里子　文芸翻訳者

ガルヴェイアスの犬

ジョゼ・ルイス・ペイショット著/木下真穂訳

新潮社　1,900 円+税

小さな国ポルトガルに実在する小さな村ガルヴェイアスの、奇妙で悲しい、でも明るさも残す物語です。本作によく出てくる言葉のひとつが「世界の終わり」。綴られる数々の悲喜劇のそれぞれはささやかな物語ですが、読み終わるときにはひとつの世界の終焉、もしくは始まりが感じられるかもしれません。

フィクション

木下真穂　ポルトガル語翻訳者

鳥

オ・ジョンヒ著／文茶影訳　段々社　1,800円+税

急激な高度成長期にある1980年代の韓国社会、その路地裏に「宇宙で一番美しい娘、カッコイイ男」になるよう名付けられた宇美（ウミ）と宇一（ウイル）姉弟が暮らす。二人を取り囲む世界が、11歳の少女・宇美の目を通して幻想的で透明感のある文章で綴られる。今日活躍中の韓国女性作家が最も影響を受けたとたびたび告白する著者の初長編。

きむ ふな　韓国・日本文学翻訳家、日本文学研究家

掃除婦のための手引き書　ロシア・ベルリン作品集

ルシア・ベルリン著／岸本佐知子訳　講談社　2,200円+税

ミ・コラソン（マイ・ハート）わしづかみの取り扱い注意本！　鉦山師の娘としてテキサス、メキシコ、チリ、と南北アメリカ大陸を流浪して育った少女が作家となって、即物的な美文で紡ぎ出す奥の深い物語。そっけないフレーズが酒と血縁のめくるめくダークな関係を浮上させる。その詩情を伝える翻訳のマジック。最良のアメリカス文学がここに。

スペイン語混じりの英語アメリカス文学

くぼたのぞみ　翻訳家、詩人

ある鱧の手記

邱妙津著／垂水千恵訳　作品社　2,400 円+税

アジア初の同性婚を実現した台湾で書かれた記念碑的作品。自己否定と他者への渴望が糾える縄のごとく交錯する主人公のレズビアン「拉子（ラーツ）」の手記は残酷なほど美しく、「鱧」（レズビアンの代名詞）たちの抱えた苦悩を浮かび上がらせている。作者の邱妙津は本作出版の翌年に自ら命を絶ち、同性婚実現を目にすることはなかった。

政治／恋愛

倉本知明　台湾・文藻外語大学助理教授、台湾文学翻訳家

ある家族の会話

ナタリア・ギンスブルグ著／須賀敦子訳

白水 U ブックス　1,000 円+税

たくさんの「声」が、賑やかに、騒々しく、ときに哀しげに響きあって、豊かなコーラスを奏でているような小説です。ために、最初の 10 ページを読んでみてください（「パリのモードはスポーティよ」のあたりまで）。もし、登場人物の声があなたの耳に届いたなら、きっと最後まで楽しめるはずです。

家族／イタリア史／ファシズム

栗原俊秀　翻訳家

あこのろ、天皇は神だった

ジュリー・オオツカ著／小竹由美子訳

フィルムアート社　2,300 円+税

日米開戦後、アメリカ西海岸在住の日系人たちは日常生活を奪われて強制収容された。米国籍を持つ子供たちまでもが。ある日系人一家を見舞う理不尽な運命を描く本書は、平易で淡々とした語り口から深い悲しみややり場のない怒りが滲みでる、心に刺さる物語だと思うのです。刺さったトゲについて、いろいろ考えていただければ嬉しいです。

政治／歴史／家族／日系人

小竹由美子　翻訳者

ファミリーライフ

アキール・シャルマ著／小野正嗣訳　新潮社　1,800 円+税

インドからアメリカに渡り、幸せな生活を夢見ていた一家の運命が、突然の事故で暗転する。寝たきりになった兄の介護に明け暮れる家族の長い年月を、成長していく弟の目から描いた自伝的な小説。静かに流れていく文章の底に、暖かく光るものがある。大人だけの本にしておくのはもったいない。十代の読者にも、おすすめの 1 冊です！

こだまともこ　翻訳家

赤い衝動

サンドラ・ブラウン著／林啓恵訳　集英社文庫　1,200 円+税

ワイルドなヒーローと健気な美貌のヒロインがその身に降りかかる危険をもとめせず、過去の大事件につながる真相究明に向けて奔走するロマンティックサスペンス。予測を裏切る展開、個性豊かな脇役たち、ホットな場面と読みどころは盛りだくさん。ロマンス小説初心者が初めて手に取る一冊にぴったりです。ロマンティックサスペンス／ロマサス／ホット／どんでん返し

小林さゆり　翻訳家

リッジウェイ家の女

リチャード・ニーリィ著／仁賀克維訳　扶桑社ミステリー　940 円+税

裕福な美貌の画家が恋をして、母と娘のくんずほぐれつの争いが始まった——愛憎劇からにじみ出す暗い過去と葛藤に引き込まれ、曲者だらけの展開に振り回されながら、ストーリーは驚きの結末へ。おしゃれなのに泥くさいサスペンスをご所望の方々に持ってこいの一冊です。

ミステリー／サスペンス／家族

駒月雅子　翻訳家

猫のゆりかご

カート・ヴォネガット・ジュニア著／伊藤典夫訳

ハヤカワ文庫　740 円+税

僕がまだ若く、もっと傷つきやすかったころ、本はいろんな忠告を与えてくれました。なかでも多かったのがヴォネガット作品で、よくメモを取りましたよ。「本書には真実はいっさいない」とか「上は残して回りだけ刈りあげろ」とか「どうなったんだろうと思うものはたくさんあるわ」とか。そういう読み方をして何がいけないんです？（談）。

無害な非真実／ボコノン教／猫

近藤隆文　翻訳者

なにかが首のまわりに

チママンダ・ングズィ・アディーチェ著／くぼたのぞみ訳

河出文庫　1,150 円+税

どうせ初めて読むなら、いっそすぐく遠い国のお話を！　ナイジェリア出身、世界の期待を一身に集めるアディーチェの珠玉の短編集です。フェミニズムの本でも有名な作家ですが、小説を読まないのはもったいなさすぎ。物語の面白さと、切なさと、稀に見る公正さの感覚。この三つのシャワーを同時に浴びる、めったにない読書体験ができます。

斎藤真理子　韓国語翻訳者

マッドジャーマンズ　ドイツ移民物語

ビルギット・ヴァイエ著／山口侑紀訳　花伝社　1,800 円+税

「1979 年以降、東ドイツには 2 万人のモザンビーク人が住んでいた」

東独は 1990 年に西独に編入されて消滅するから、わずか 10 年の話だ。10 年で 2 万人。おなじ社会主義の兄弟国へ、理想と豊かさを求めて移民した人々。彼、彼女らにはどんな運命が待っていたのだろう？　三人の視点人物を通して活写されるその半生は「結びつきも、怒りもなく、文化のはざままで、ゆらめく」。

政治／歴史／グラフィックノベル

酒寄進一　和光大学教授、ドイツ文学翻訳家



移動都市

フィリップ・リーヴ著／安野玲訳　創元 SF 文庫　940 円+税

まず宮崎駿ファンに勤めたい！　なにしろ、スチームエンジンとキャタピラをとりつけた「都市」が大地を疾走し、空中都市の周りを飛行船が飛び回るのだ。舞台は、最終戦争後の荒れ果てた地球。乏しい資源を求め、都市同士が死闘を繰り広げる。そんな冒険活劇に、いくつもの深いテーマが埋め込まれているのも魅力。アイデアと完成度が一歩抜きんでた傑作！

アクション／SF／ファンタジー／冒険

三辺律子　文芸翻訳

魔法の庭　空を見上げる部族　他十四篇

イタロ・カルヴィーノ著／和田忠彦訳

岩波文庫　720 円+税

学生のころ、新しい訳が出るたびに即買って読んでいた作家がカルヴィーノ。『宿命の交わる城』『冬の夜ひとりの旅人が』、冊ごとに「ああこういう書き方もあるのか」という発見……ああいう読み方は幸福だったなあとと思う。で、到達点ということでいえば『見えない都市』だが、今回は出発点ということで、みずみずしい『魔法の庭』を。

柴田元幸　アメリカ文学翻訳者

ネルーダ事件

ロベルト・アンブレロ著／宮崎真紀訳

ハヤカワ・ポケット・ミステリ 1,700円＋税

ノーベル賞詩人パブロ・ネルーダの依頼を受け、ある人物の消息を探しに行くことになった探偵カジェタノ・ブルルが、依頼主の底意に気づき、彼の女性遍歴をたどりつつ世界を旅する。『イル・ポストイーノ』などの印象の強いネルーダを脱神話化するような作品。面白いのは、ネルーダがカジェタノにメグレ警部シリーズの探偵小説を手渡し、これで探偵業を勉強しろと勧めていること。

ミステリー／歴史（近過去）／恋愛／政治

柳原孝敦

大学教員、スペイン語圏文学者

ゴールドフィンチ 1～4

ドナ・タート著／岡真知子訳 河出書房新社 1,400円＋税

ニューヨークの美術館爆破テロ事件で母親を失い、館内から一枚の名画を持ち去った少年テオの波瀾万丈の物語。現代が舞台なのに、どこことなく古めかしい雰囲気があって、「21世紀のディケンズ」という批評にふさわしい大長編。全四巻で総ページ数1200。オランダ黄金時代の絵画が好きな人、長い物語が好きな人、ぜひ読んでください！

ミステリー／冒険／アート

山本やよい 英米文学翻訳家

広場

崔仁勲（チェ・イヌン）著／吉川凧訳 クオン 2,000円＋税

朝鮮半島が南北に分断された頃。哲学青年・李明俊[イ・ミョンジュン]は、腐敗した韓国社会と恋人を捨てて北に密航する。明俊が北の現実を知った頃、朝鮮戦争が勃発し、彼は捕まって捕虜となった。停戦後釈放されたものの、北にも南にも希望を持ってない明俊は、第三国に行く道を選ぶ……。韓国で最も有名なく断断小説。

純文学／断断小説／朝鮮戦争

吉川凧 韓国文学翻訳家



はじめての海外文学 公式 SNS

Twitter



@kaigaibungaku

公式サイト



https://hajimetenokaigaibungaku.jimdo.com/

はじめての海外文学フェアと関連イベントの情報はもちろん、日本で一番(?)充実した海外文学・翻訳書イベント情報を日々更新するサイト。のぞいてみてね。



夜ふけに読みたい 不思議なイギリスのおとぎ話

フローラ・アニー・スティール再話／アーサー・ラッカム挿絵／
吉澤康子、和爾桃子編訳 平凡社 1,900円＋税

おとぎ話とくれば、多くのみなさんは「もう知ってる」と思うでしょうが、この本を読めば、「え、そうだったの?」という結末に出会うこと請け合いです。有名な話から、あまり知られていない話まで、どれもちょっと不気味だったり、面白かったり、残酷だったり、あきれられるばかりだったり。猫による目からうろこの楽しい案内付きです。

昔ばなし／ファンタジー／ホラー／猫

吉澤康子 英米文学翻訳者

娘について

キム・ヘジン著／古川綾子訳 亜紀書房 1,900円＋税

どうして親は自分の選んだ生き方をわかってくれないんだろうと思う時期がある。でも親は、理解できないそんな子供の生き方も、なんとか理解しようと葛藤して、ただ幸せになってほしいと必死で思ってくれていた……。それに気づけなかったことに気づかせてくれる、世界共通の母親という存在の心境が、痛いほど伝わってくる小説です。

母娘／LGBT／高齢化社会

吉原育子 韓国語翻訳者

バートラム・ホテルにて

アガサ・クリスティー著／乾慎一郎訳

ハヤカワ文庫 778円＋税

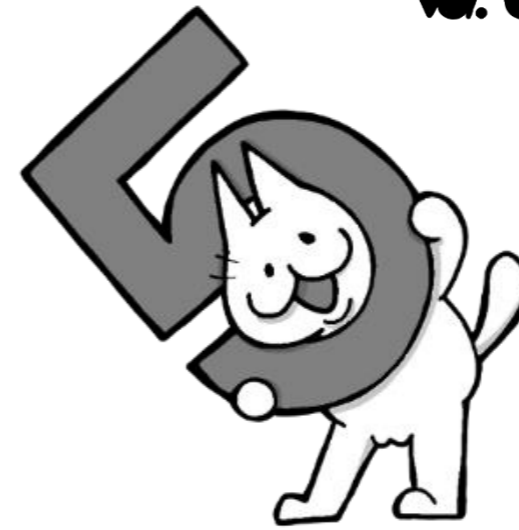
正統派の英国風アフタヌーンティーを知りたいければ、だんぜんお勧め。秋冬のひとりティータイムが三割増しでおしくなります(当社比)。ただし、最後のページでスコーンを喉に詰めないようにくれぐれもご注意ください。

ミステリー／古き良き英国／ティータイム

和爾桃子 英米文学翻訳者

はじめての海外文学

Vol. 5



大人向け②

はじめての海外文学フェア

Vol. 5

*

「はじめての海外文学」フェアは、日本じゅうの書店店舗が協力し、お薦めの海外作品をいっせいに売っていく壮大な試みです。2019年も11月から第5回フェアが各書店で展開されます。今回も大人向け、子供向けの両部門で開催され、選書メンバーの翻訳者は、合わせて86名。

どうぞ素敵な本との
出会いがありますように。

*

ジャン・クリストフ 1

ロマン・ローラン著／豊島与志雄訳 岩波文庫 1,000円＋税
今年の7月で70歳になった。これまでの時間と残りの時間のことを考える。十代の半ばの頃に出会って感動した作品を改めて読みたくなる。その中で真っ先に思い浮かぶのは17歳の高校生時代に夢中になって読んだこの大作。17歳の心を揺さぶったこの作品を71歳に向かう中、1巻ずつ読み返し、何に気づき、何に感動するのか、これは今だからこそできるとも贅沢で貴重な読書体験だと思う。

中川五郎 フォーク歌手、翻訳家

茶色の朝

フランク・バヴロフ著／ヴィンセント・ギャロ絵／藤本一勇訳
大月書店 1,000円＋税

「茶色の猫以外飼ってはダメ」というへんな法律ができてしまった。法律だから、仕方がない? それでいいの? やがて、犬が、新聞が...すべてが茶色になっていく。ホラー? 寓話? でも、どこにでも起こりそうなこと。

寓話／大人の絵本／コワイ話

永田千奈

フランス語翻訳者

コナン・ドイル ショートセレクション

名探偵ホームズ 踊る人形

アーサー・コナン・ドイル著／千葉茂樹訳
理論社 1,300円＋税

「はじめての海外文学」と「はじめてのホームズ」を兼ねて、この1冊はいかがでしょう。謎解きが楽しい(せつない) 正典の3作に、外典のしゅい超短編1作を加えた心憎い構成。千葉茂樹さんの軽妙な訳文とヨシタケシンスケさんの味わい深い挿画が、懐かしくて新しいホームズの世界へと誘ってくれます。

ミステリー／冒険／探偵

中村久里子 翻訳者

分別と多感

ジェイン・オースティン著／中野康司訳

ちくま文庫 1,500円＋税

大きな言い方をすれば、小説、ドラマ、映画など、現代のほとんどすべてのラブロマンスの原型を作ったかもしれない、ジェイン・オースティンの傑作。『高慢と偏見』の方が取りあげられる機会は多いけれど、こちらにも注目してもらいたいです。エマ・トンプソン主演の映画「いつか晴れた日に」の原作。映画もあわせて是非。ラブロマンス

夏目大 翻訳家

フランス短篇傑作選

リラダン、アポリネール、デュラス他著／山田稔訳

岩波文庫 920円＋税

フランスの短篇小説のアンソロジーとして、いま入手できるものなかでもっとも優れたものではないだろうか。編者は慧眼というよりほかない。全力で推薦する。

文学／ファンタジー

西崎憲 英米小説翻訳者、作家

アメリカの鱒釣り

リチャード・フローティガン著／藤本和子訳　新潮文庫　550円＋税
だれか『ニッポンの鱒釣り』を書いてくれませんか？　こんな作品は日本文学にはないのではないのでしょうか。「フローティガンのことばは幻想的だ……（幻想は）現実を逆探知する回路」と語る訳者あとがき、独特の訳注、柴田元幸さんの解説を含めて、いまもなお必読の名作です。

文学／幻想／詩　　　　　　　　　**野口百合子**　英米文学翻訳家

さあ、気ちがいになりなさい

フレドリック・ブラウン著／星新一訳　　　　　　　　　**ハヤカワ文庫 SF**　920円＋税
短編の名手フレドリック・ブラウン。魔王を相手にいたずらっ子が水鉄砲で応戦したり、地球最後の一人となった男が部屋に座っていると、ドアにノックの音がしたり。夢中で読まずにはいられない面白さ。星新一の翻訳がまた素晴らしい。50年以上前の訳なのに、実に新鮮！　二人の名匠の夢のコラボレーションを心ゆくまで楽しもう。SF／ファンタジー／冒険　　　　　　　　　**野崎敏**　フランス文学者

秘密の花園

フランシス・ホジソン・バーネット著／羽田詩津子訳　　　　　　　　　**角川文庫**　660円＋税
『秘密の花園』は、波瀾万丈の人生を歩んできたバーネットが61歳のときに書いた作品です。人生の荒波や失望や喪失を経験した大人が読んでこそ、本書のテーマは心の琴線に触れるにちがいないと、訳していて強く思いました。後半の人生をどう生きようか思い惑っている方に、ぜひ本書を読んで、明るい希望と未来を感じていただきたいと願っています。児童物／成長物語／人生を考えさせる　　　　　　　　　**羽田詩津子**　英米文学翻訳業

ブライアーヒルの秘密の馬

メガン・シェパード作／リーヴァイ・ピンフォールド絵／**原田勝**、澤田亜沙美訳　　　　　　　　　**小峰書店**　2,000円＋税
第二次大戦中のイギリス。結核療養所で暮らす少女エマは、鏡の中に翼のある馬を見ます。やがて隣接する庭園の中に舞いおりた馬との交流が始まり……。悪化していく病状、迫る戦火、忘れてしまいたい家族の悲劇、隻腕の若者トマス……。どこまでが現実で、どこまでがエマの夢想なのか。結末の解釈はあなた次第！　ファンタジー／挿絵入り　　　　　　　　　**原田勝**　児童書・YA　翻訳者

ワニの町へ来たスパイ

ジャナ・デリオン著／島村浩子訳　　　**創元推理文庫**　940円＋税
CIAの凄腕スパイを自称するわりには、どこか抜けてる主人公もいけれど、わきを固めるおばあちゃんたちがぶっとんでいて、大ファンになることまちがいなし。そして絶対、バナナブディングが食べたくなります。続編『ミスコン女王が殺された』はおもしろさがさらにパワーアップ。2冊まとめて買って損はしません！　ユーモア／ミステリー／アメリカ南部

東野さやか　文芸翻訳者

アウシュヴィッツは終わらない　これが人間か
プリーモ・レーヴィ著／竹山博英訳

朝日新聞出版　1,620円＋税
作者レーヴィは言う。「(反ユダヤ主義の狂気は)理解は不可能でも、知ることは必要だ。なぜなら一度起きたことはもう一度起こりうるからだ（略）。だからこそ何が起きたかを考えるのは万人の義務なのだ」と。「この怪物を生み出した子宮はいまだ健在である」のだから。周囲を見る目が確実に変わる本。

人間／歴史／政治　　　　　　　　　**伏見操**　児童書翻訳家

マンゴー通り、ときどきさよなら

サンドラ・シスネロス著／くぼたのぞみ訳　　　　　　　　　**白水Uブックス**　1,300円＋税
合衆国にやってきた移民の子どもたちが生活のなかで知る喜びや、やり場のない怒りや悲しみ。女性を選ぶことのできない未来。マンゴー通りで暮らす女の子エスペランサにとつての「家」はどこにあるのか。どうやってそこを目指せばいいのか。邦題の意味が明かされるときには、その物語は遠いと同時にどこまでも近い奇跡として姿を現している。

青春／移民　　　　　　　　　　　**藤井光**　大学教員、アメリカ文学翻訳者

ヒトラーと暮らした少年

ジョン・ポイン著／原田勝訳　　　**あすなる書房**　1,500円＋税
数奇な運命に導かれ、ヒトラーの山荘で暮らしはじめた少年の物語。昨年のフェアでこの本に出会い、驚きの連続とも言える起伏に富んだストーリーに魅せられて、一気に読了しました。山荘のみを舞台に、少年の五感を通じてあの戦争が間接的に描かれるのに、全体主義の恐ろしさがじわじわと胸に迫ります。いまの時代だからこそ、そしておとなの読者にこそ読んでいただきたい一冊です。

冒険／歴史／ミステリー／YA　　　**布施由紀子**　出版翻訳家

卵をめぐる祖父の戦争

デイヴィッド・ベニオフ著／田口俊樹訳　　　　　　　　　**ハヤカワ文庫**　900円＋税
主人公はマジメな童貞くん（17）、相棒はチャライイケメン。凸凹コンビが戦時下のソ連でありえない任務を押しつけられる。死ぬほど（←文字通り）寒くて空腹で、理不尽で悲惨な状況の中、パワー炸裂する2人の掛け合いにご注目！　パルチザンの射撃手がまた、ほれほれするほど……続きは本文でどうぞ。第二次世界大戦／青春／冒険　　　　　　　　　　　　　　　**古市真由美**　フィンランド文学翻訳

どきどき僕の人生

キム・エラン著／きむ　ふな訳　　　　　　　　　**クオン**　2,500円＋税
17歳の高校生カップルから生まれたアルムは、3歳のときに早老症という病気になります。「子どもたちはすすく育っていく。そして僕はすすくと老いていく」というプロローグの一文は悲しい結末を予想させますが、両親が彼を授かったのと同じ17歳になったアルムの豊かな心が紡ぐ物語は、涙だけではなく笑顔も運んでくれるはずです。

青春　　　　　　　　　　　　　　　**古川綾子**　韓国語翻訳者

星の王子さま

サン＝テグジュペリ著／倉橋由美子訳　　**文春文庫**　470円＋税
ついに復刊が叶いました！　名作家・倉橋由美子が「大人が読むための小説」のつもりで訳した『星の王子さま』です。王子さまの心のなかを旅する大きな、そしてとても切ない冒険譚。これまで知っていた小説とはちよっぴり味わいが違うかもしれません。「世界で一番美しくて、一番悲しい風景」を、倉橋訳で是非お楽しみください。

ファンタジー／星／冒険　　　　　　　**古屋美登里**　翻訳家

風の影（上・下）

カルロス・ルイス・サフォン著／木村裕美訳　　　　　　　　　**集英社文庫**　各743円＋税
20世紀半ばのスペイン・バルセロナ。「忘れられた本の墓場」で見つけた本の虜になった少年が、その作家の謎めいた過去を探るうちに、予想外の流れに巻き込まれ……というお話ですが、「忘れられた本の墓場」というワードだけでも本好きとしてぐっときませんか？　物語の力にぐいぐい引っ張られて、迷宮じみた異世界にどっぷり浸れること請け合いです。

ミステリー／冒険／古書店　　　　　**ヘレンハルメ美徳**　スウェーデン語翻訳者

パラダイス・モーター

エリック・マコーマック著／増田まもる訳　　　　　　　　　**創元ライブラリ**　1,000円＋税
物語を読む楽しみのひとつは、見たことも聞いたこともない場所に運ばれていって、あっと驚いたりわくわくしたりしながら、思いがけない結末に投げこまれることだと思います。エリック・マコーマックのすべての作品は、おぞましくも迫真に満ちた奇想をつぎつぎにくりひろげながら、文字どおりわれわれを途方もない場所に運んでいってくれます。メタフィクション／マジックリアリズム／奇想小説／ほら話

増田まもる　英米文学翻訳家

ある一生

ローベルト・ゼーターラー著／浅井晶子訳　**新潮社**　1,700円＋税
ドイツ語圏でベストセラーとなった小説の邦訳。オーストリアの山村で生きた一人の男の人生が語られているだけなのだが、寡黙で地味なこの主人公に、なぜだか魅力を感じてしまう。貧しくても自分らしく、尊厳を保って生きるというのは、こういうことなのかな。老若男女、すべての人におすすめ。

歴史／山／20世紀　　　　　　　**松永美徳**　翻訳家、早稲田大学教授

ウは宇宙船のウ

レイ・ブラッドベリ著／大西尹明訳　**創元 SF 文庫**　880円＋税
長らく読み継がれてきた短篇集であり、今後もそうであってほしい作品として、海外文学の旅にこれから出発しようというみなさんの乗り物に宇宙船をおすすめします。未知のものに対する憧れとわくわく感、あたらしい、あるいは過酷な環境における人間の知恵と強さがぎゅっと詰まった名作。萩尾望都さんによる同名のコミックもあります。

SF／ファンタジー／冒険　　　　　　　**三角和代**　翻訳業

口のなかの小鳥たち

サマンタ・シュウェプリン著／松本健二訳　　　　　　　　　**東宣出版**　1,900円＋税

ひたすらに不穩、ひたすらに不気味。そこでは少女が小鳥を食べ、人魚男が「やあ」と挨拶する。ふだん歩く道にいつしか開いていた穴に、うっかり落っこちてしまったような不安な気分させられること請け合いの、大好きな幻想短編集です。

幻想／短編集　　　　　**宮崎真紀**スペイン語圏文学・英米文学翻訳家

1793

ニコラス・ナット・オ・ダーグ著／ヘレンハルメ美穂訳　　　　　　　**小学館**　2,000円＋税
フランス革命の余波におびえるスウェーデンを舞台にした歴史ミステリー。グスタフ三世が暗殺されたこの王国には、絶望感も漂っています。そんなときに、手足も、目も歯もない死体が発見されました。「人間のなりをした怪物」を追うのは、労咳に苦しむヴィングと義手の「引っ立て屋」カルデル。暗い水都の描写がみごとな作品です。歴史／ミステリー／スウェーデン　　　　　　　　　　　　　**宮下志朗**　フランス文学者、放送大学教授

わたしの心のなか

シャロン・M・ドレイパー著／横山和江訳　　　　　　　　　**鈴木出版**　1,600円＋税
主人公のメロディは10歳の少女。物知りで、友だちや家族と話したいことがたくさんあるのに、脳性まひのため自分の思いを伝えることができず、知能も劣っていると誤解されがちだ。しかし、両親や周囲の人たちの愛情と、コンピュータの助けを借りて意思を伝えられるようになると、精神的にたくましく成長していく。両親と初めて「話す」場面は感動的。

ヤングアダルト／障害者　　　　　　　**向井和美**　翻訳家

供述によるとペレイラは……

アントニオ・タブッキ著／須賀敦子訳　　　　　　　　　**白水社Uブックス**　1,000円＋税
1938年夏の独裁政権下のリスボン。文芸欄専門の新聞記者をしているさえない太っちょの中年男ペレイラ。亡き妻の写真に話しかけ、行きつけの店でレモネードとオムレツを食べるのが唯一の楽しみ。の単調な生活に、若者カップルが突然闖入してくる。彼の孤独は、大きな社会と政治と歴史につながっていく。。淡々とした書き出しからドキドキのクライマックスまで、須賀敦子の名訳でこのイタリア作家の語りにぜひふれてください。政治／冒険／歴史／サスペンス　　　　　　　　　　　　　**村松真理子**　イタリア文学研究家、翻訳者

瓶に入れた手紙

ヴァレリー・ゼナッティ著／伏見操訳　**文研出版**　1,500円＋税
中東問題はややこしいからいいや、という人にお勧め。テロに遭って、テロを仕掛ける側を知ろうとするエルサレムの少女に、憤りを皮肉にしてぶつける「出口なし」状態のガザの青年。相手を知りたいし、自分を分かってほしい2人の直球のメールやり取りはひたむきだ。軽やかな訳文とささめや画伯の装画が爽やか。

メール／中東紛争／多様性　　　　　**母袋夏生**　イスラエル・ヘブライ語の文学翻訳